

江戸期昔話絵本 — 『赤本再興 花咲ぢづ』について (二) —

赤羽根 有里子

要旨 本稿は、江戸期昔話絵本『赤本再興 花咲ぢづ』の調査と翻刻をおこない、その内容を報告するものである。本書は、昔話「花咲爺」の一作品で、式亭三馬作、歌川国丸画、文化九年（一八一二）に出版された合巻体裁の絵本であり、今回掲載した写真版（コピー）及び翻刻はその後半部分である。

本稿は、江戸期昔話絵本『赤本再興 花咲ぢづ』（国立国会図書館所蔵）の調査と翻刻をおこない、その内容を報告するものである。本書は、昔話「花咲爺」の一作品で、式亭三馬作、歌川国丸画、文化九年（一八一二）に出版された合巻体裁の絵本であり、今回掲載した写真版（コピー）及び翻刻はその後半部分（七丁裏〜十五丁裏）である。なお、本書の書誌的事項及び作品の前半部分の写真版（コピー）と翻刻については、前号（岡崎女子短期大学研究紀要四〇号）掲載の「江戸期昔話絵本 — 『赤本再興 花咲ぢづ』について（一） —」を参照されたい。

写真版（コピー）と翻刻

〔凡例〕

- (一) 各丁は片面あるいは見開きごとにまとめて丁数を示し、上段には原本の写真版のコピーを、下段にその文字部分の翻字を示した。
- (二) 翻字は、紙面の許す限り、文字遣い及び表記記号、文字の位置を原本のままに再現することを目指した。ただし、登場人物の着物に付され

た（登場人物名を示す）文字は省略した。

- (三) 翻字において使用した記号は以下の通りである。

① 翻字が不確かな箇所は右側に傍線を付した。

② 判読不能であるが、他の資料等から推定した箇所は「」で示した。

③ 翻字不能の箇所は、楕円あるいはその文字数だけの○印で示した。

- (四) 仮名、漢字等の表記は、次に示す原則により行った。

① 文中における片仮名「ミ、ハ、ニ、ワ」は、それぞれ「み、は、に、わ」と平仮名で表記する。

② 意識的に用いられていると思われる片仮名（感動詞など）は原本のまま片仮名で表記する。

③ 旧字体の漢字は現行の新字体に置き換え、新字体のない漢字は原本のまま表記する。ただし、異体字や俗字は原則として基本形に置き換える。

④ 仮名遣いは原本のまま表記するが、変体仮名や合字は通常の仮名に置き換えて表記する。

⑤ 固有名詞、その他特殊なものや文字に意識的な意義づけがなされているものは、原本のまま表記する。

本稿の写真版（コピー）及び翻刻の掲載につきましては、国立国会図書館のご許可をいただきました。ここに記して御礼申し上げます。



(8オ)

(7ウ)

けんどんち、は又く
うらやましく思ひ正直
ち、が方へ来りてかの
うすをかりうけ
ひとうすつき
かけんとする
ときしやれ
かうべ
いくらと
なくあら
はれ出
まむし
ひばかり
などの
へびまとひ
つきて
ふうふの
ものを
くるしめ
ける

けんどんち、は又く
うらやましく思ひ正直
ち、が方へ来りてかの
うすをかりうけ
ひとうすつき
かけんとする
ときしやれ
かうべ
いくらと
なくあら
はれ出
まむし
ひばかり
などの
へびまとひ
つきて
ふうふの
ものを
くるしめ
ける

これはたまらぬ
ゆるせ

おやちどのこれはまあなんたる
「どい」なるてんこちもない

あんまり はらが
たつ
く いこ
が

うさく
しや
く
のう
おそろ
しい
あか
かた
はい
の



(9オ)

(8ウ)

正直ちゝは
かのはいをさるにいでて
かれ木のえだにまたがりかれ木に
はなをさかせましよ花さきぢゝ花さかせぢゝとぞ
よびたりける

そこに
いるは何
ものぢや
とのさまの
おとほりぢや
かたよれく

これは
はなさきぢゝと申てかれ木に
はなをさかせます
おのぞみならばさかせて
おめに
かけ
ましよ

正直ちゝはそれともしらず
けんどんぢゝが方へきたり
うすがあいたらば
かへしてくれよと
いふにかやうくの
ことにてくたき
たるよし
いひ
ければ
正直ちゝ
おとろき
な
きげ
し
からば
そのはいを
くだされとて
かまの下より
もらひかへりぬ
そのはいがなんになるやら
いくらでももつてゆかしやれ

おもひ
出して
はう
はらで
なら
ぬ

此
はいを
せめての
かたみに
もらひましよ
さてく
をしい
ことを
しました
しかし
うすの
とが
あら
しかた
ない



(10才)

(9ウ)

かれ木に
はな
さき
たる
てい

まことに
はなさかせ
ちんちや
かんしん
く

ありがたう
そんじ
ま
する

あかちの
にしきの
はおりを
くださるぞ

とのさま此よしをき、給ひ
さらばしもうとあり
ければ正直ち、
ざるよりはいを
とりいだし

ひとつかみ
ばかりとまけば
今までかれ木の
さくらたちまち
らんまんとさき
みだれければ
とのさま御よろ
こびあさからず
かずく
御ほうひの
うへ

あかちの
にしきの
はおりを
いしやうを
下され
ける
ほう
見こと
く



(11オ)

(10ウ)

けんどんちゝおなじく
かれ木にのぼりある
所へとのさまおとほりにて
うわきにきゝしはなさき
ちゝかれ木にはなをさかせよと
ありければ心得て候とはいト
つかみまくとひとしくかれ木に
はなはさかずしてとのさまはじめ
おともの人々目にはい入りて大きにそうどうする

はやく
もどりを
まします

そなたも
あかちの
にしきを
きて
これ

となりの
ちゝめはとかく
いろくなものを
もらふやつちや

けんどんちゝはとなりの
正直ちゝがあかちの
にしきをもらひ
たるをうらやみわれも
はなさきちゝと
なりてほうびを
もらはんとて
づきんそで
なし

これは
ぶれい
ばんせん

ばおり
を
きて
正直
ちゝ
かた
を
うつ
いで
行く

めの中へ
はいが
はい
いた
く



(12才)

(11ウ)

けんどんちゝはかれ木より
引おろされはんし
はんしやうに
てうちやくされ
血たらけに
なりて
もどり
ければ
けんどんばゝは
それとも
しらす
もどりを
まちわひて
かどぐらに立みけるが
とほめに見て大きに
よろこびこちの
ちゝいどのも
あかちのしき
きてもどらしやつた
げなとそばちかく
なるを見れば
あかちのしきと
思ひの外からだちう
血だらけなりしかば
あきれ
まどふぞ
こゝち
よき
むね
うち
に
して
くれう
こいつ
たいぼくの
はへぎは
ふといのねと
きて
ある
おぼへたか
く

きるなく
かたなの
けがれちや
てうちやく
せい
とのさまのおめの中へ
はいをいれをつたな
おのれ
にくい
やつ
あゝ
いたいごめんく
いのちは
たすけ
ふみころ
下され
あきたらぬ
くるしや
ちゝめちや
く



(13オ)

(12ウ)

けんどんぢゝは
あくしんいよく
つりて此うへは
手みぢかに
正直ぢゝが家へ
しのび入りたからの
つゞらうばはんとて
なんなく
しのびて
うばひとり
つゞらを
あくれば
たからに
あらで
さまくの
ばけもの
出て
ふうふを
なや
ます

つゞらから出たら
のうく
とした

ひとつ
見こし
やらうか
おれに

見こされると
三年は
いきぬ
ぞ

ひう
どろ
く
く
もん
ぐあ

大き
なる
女のくび
けらくくと
わらふ

だれだと
おもふふゑが
しばらくだそ
あゝつがもねへ

もうし
おちい
さん
わたしは
こはくは
わい
ない

な
め
さん
ぼう
又
か
ぶつ
た

のう
こはや
おそろ
しや
たす
給へ
なむ
あみだ
ぶつ



(13ウ)

けんどん
ちゝ
おもひ
しつたか

(14オ)

ひそかにあく
をなすものは
天これを
ばつしあら
はにあくを
なすものは
人これをばつす
いづれあくしを
なすものは
大小にかきらず
そのむくひ
来るなりけん
どんちゝ

あゝ
くるしや
く

ふうふの
もの
あく
しん
つち
くへ
此うへは
正直ちゝ
ふうふ
を
ころ
さん
し
のび
出に
には
そら
くも
り
い
か
づ
ち
こ
く
う
だ
り
て
ふう
ふ
の
もの
を
つか
み
ころ
し
ぬ



(15オ)

(14ウ)

諸虚百損をおきなふ
の良薬なり

一刻代式拾匁也

金百疋

銀二朱

百文より二匁三匁四匁

式亭三馬店

江戸本町二丁目

式亭三馬

式亭三馬

式亭三馬

式亭三馬

式亭三馬

式亭三馬

式亭三馬

式亭三馬

式亭三馬

式亭三馬

式亭三馬

式亭三馬

式亭三馬

式亭三馬

式亭三馬

式亭三馬

式亭三馬

式亭三馬

式亭三馬

式亭三馬

式亭三馬

式亭三馬

式亭三馬

式亭三馬

式亭三馬

式亭三馬

式亭三馬

式亭三馬

式亭三馬

式亭三馬

きどくなる
御ほうび
として
とのさまより
下し
おかる
あり
がた
く
ちやう
だい
いたせ

金一匁
銀一匁
銅一匁
鉛一匁
鉄一匁
錫一匁
鋅一匁
銀一匁
銅一匁
鉛一匁
鉄一匁
錫一匁
鋅一匁

おれも
せめて
ひとはこ
ほしい
此本の
作者も
ほし
かう

金一万五千両
米十二万三千四百
五十俵御ほうびとして
下しおかれしかば
めんぼくを
ほどこし
ける

かくて正直ちふうふの
ものは心たゞしく
じひふかきよし
国中にきこえ
ければとのさま
きどくに
おぼ
めし
され

何ひとつ
てから
もな
くしへ
あまた
の
御
ほう
び
ちやう
だい
いたし
が
あり
が
た
く
す
ま
り
奉
存
う



(15ウ)

録目史稗版新とし乃る當

御高覧の上御評判奉願上候以上	右のこらず開板賣出し申候御求め	書林江戸田所町	鶴屋金助版
恩澤 江戸水福譚	繫蒼 江ののみづさいはいばなし	全三冊	歌川國直画
赤本再興○花咲爺	あかほんさいかう はなさかぢ	全三冊	同捕 歌川國九画
赤本再興○桃太郎	あかほんさいかう もゝたらう	全三冊	同捕 歌川國九画
津國勝山 丹前風呂昔繪容	つぐくかみま たんぜん ふろむかし えすがた	全六冊	同作 歌川國直画
髭の意久 名總角兩個助六	ひげのいきう なをあげまき ふたりすけろく	全六冊	同作 歌川國貞画
讀本 忠臣蔵偏癡氣論	ちうしんくらへんちきろん	全一冊	式亭三馬作 歌川國貞画
繪入 三芝居 客者評判記	きやくしやひやうばんき	殘編 三冊	式亭三馬作 歌川國貞画

福

かくて福犬はいへんしゆご
神にいはひて
やしろをつくりて鎮座
正直ふうか天のめぐみにて
うとくの身となり富て
おこらずまづしくて
ほらすの
だらう
ひかに

めでたし

よき
も子
を
ひら
な
なかて
あんなく
けくし
らぞ
る

abstract

This paper treats the investigation, republication and content report of “Akahon Saiko Hanasaki Jiji (The Old Man Who Made the Dead Trees Blossom).” It is one of the old tales in picture books issued in the Edo period (17th to 19th centuries), written by Shikitei Sanba and drawn by Utagawa Kunimaru, and issued in 1812 in a composite-volume get-up. Presented in this paper is the latter-half part of this book in the states of photocopies and republication.